

キンメダイ 南インド洋

Splendid alfonsino *Beryx splendens*



写真提供：大洋エーアンドエフ（株）

管理・関係機関

南インド洋漁業協定 (SIOFA)

生物学的特性

- 最大体長・体重：不明
- 寿命：20歳以上
- 性成熟年齢：9歳（50%性成熟年齢）
- 産卵期・産卵場：夏（特に12月から2月）。季節的な移動はみられない。
- 索餌期・索餌場：季節的な移動はみられない。
- 食性：南インド洋では不明。他海域では中深層性魚類、エビ類等
- 捕食者：南インド洋では不明

利用・用途

冷凍ラウンドの形状で水揚げされ、干物、煮付け等として販売

漁業の特徴

日本の漁船は、年によって1~2隻が本種を主な漁獲対象として中層あるいは着底トロール操業を行い、本種の他にミナミキサカリツボダイやクロシビカマス、メダイ類等を漁獲していたが、日本の漁船は2024年度末をもって南インド洋公海域におけるトロール操業を休止した。日本以外では、近年ではクック諸島の漁船が同海域で本種を漁獲している。オーストラリアや韓国の漁船もキンメダイを過去に漁獲していた。

漁獲の動向

南インド洋公海域において、本種は中層・着底のトロール漁業によって年間およそ3,000トンから7,000トン程度が漁獲されていると推定されており、日本による漁獲量はそのうちおよそ300トンから2,400トン程度を占めている。

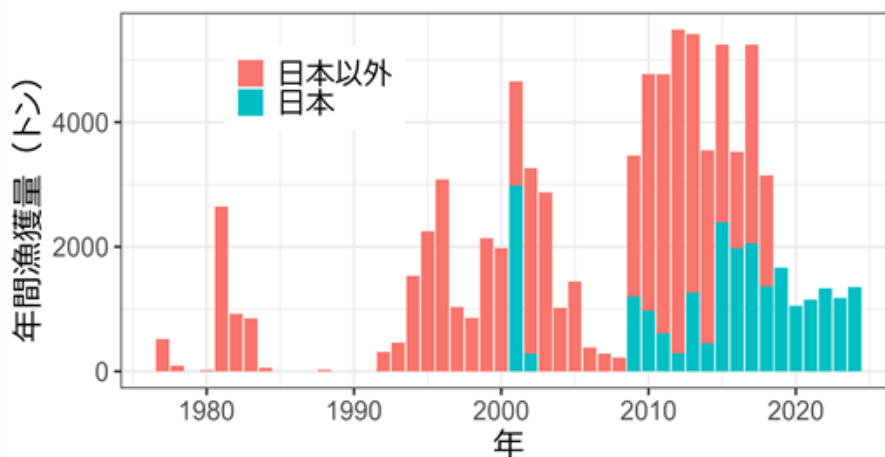
資源状態

2020年のSIOFA科学委員会において、東経80度を境界とする東西2つの管理単位ごとに年齢構成プロダクションモデルによる資源評価が行われ、2019年時点の漁獲可能資源量は3,907~4,658トンと推定された。東西いずれの管理単位も、2018年時点の産卵親魚量は初期資源量の約60%であり、MSYレベルよりも十分に高いと推定された。ただし、年齢別選択率の推定に必要な体長組成のデータの不足、自然死亡率の不確実性等、データの不足による課題も指摘された。

管理方策

SIOFAにおいて、本種をとくに対象とした保存管理措置は現時点では存在しない。漁獲戦略及び管理基準値の策定に向けて議論が進められている。底魚漁業全体への管理措置として、漁獲量・努力量を過去の平均レベルに制限し、既存漁場外での操業を行わないこと、及び科学オブザーバーの100%乗船が義務付けられている。

キンメダイ（南インド洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 （最近5年間）	3,149～5,248 トン 最近（2018）年：3,149 トン 平均：4,142 トン（2014～2018 年） 注：2019 年以降は漁獲量が未公表の国があるため集計できない
我が国の漁獲量 （最近5年間）	1,056～1,353 トン 最近（2024）年：1,353 トン 平均：1,213 トン（2020～2024 年）
資源評価の方法	年齢構成プロダクションモデル
資源の状態 （資源評価結果）	SSB ₀ ：47,286～49,190 トン SSB ₂₀₁₈ /SSB ₀ ：0.595～0.602 SSB ₂₀₁₉ /SSB _{MSY} ：1.940～2.109 漁獲可能資源量：3,907～4,658 トン 2018 年時点の産卵親魚量は初期資源量の約 60%であり、産卵親魚量は MSY レベルより十分に大きい（約 2 倍）。2018 年時点よりも 40%多い漁獲量が継続するという漁獲シナリオによる将来予測でも、10～20 年間は資源量が MSY レベルを下回ることはないとされた。ただしデータ不足による不確実性があるため、本資源評価結果を基にした漁業管理は策定されていない。
管理目標	未定（暫定的な目標管理基準値及び限界管理基準値として、それぞれ初期資源量の 40%及び 20%が提案され、議論中）
管理措置	SIOFA 保存管理措置：SIOFA CMM 01 (2025) ・漁獲量・努力量を過去の平均レベル以下に制限 ・既存漁場外の操業を禁止 ・科学オブザーバーの 100%乗船 （漁獲戦略の選択肢として漁獲量の現状維持、漁獲圧の現状維持、F _{MSY} に安全係数を乗じた漁獲圧の 3 案が提案され、議論中）
管理機関・関係機関	SIOFA
最新の資源評価年	2020 年
次回の資源評価年	2026 年



SIOFA 海域における日本及び他国によるキンメダイ漁獲量の推移（1977～2024 年）
2019 年以降は他国の漁獲量が不明であるため、日本による漁獲量のみを示した。